

第27回日本免震構造協会賞 - 2026 -

第27回日本免震構造協会賞は、右の6件に決定した。

表彰制度の目的

免震構造等の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した個人、法人及び団体に対して表彰することにより、免震構造等の技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に、技術賞は、免震建築物等の設計・施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に、作品賞は、免震構造等の特質を反映した格別に優れた建築物等の実現に主たる貢献を行った個人、法人及び団体に、業績賞は、免震構造等の特質を反映した、建築物等の優れた設計、改修、保全、維持、復元、困難なプロジェクトの実現等において際立った業績をあげた個人、法人及び団体に、普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

表 彰

2026年6月11日

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会委員

山梨知彦（委員長）

大西宏治 城所竜太 小林恵吾 小林 仁

齊藤大樹 榊間隆之 佐々木大輔

選考結果

第27回日本免震構造協会賞受賞は下記の6件である。

I 技術賞

- 1) 建物自体を制振装置化し超高層の課題を解決『BILMUS』
清水建設株式会社 青木 貴 今井克彦
小槻祥江 吉田直人

II 作品賞

- 1) 中央日土地博多駅前ビル
株式会社竹中工務店 高山一斗 須賀定邦
柳澤信行 奥野雄一郎
東 佑哉
- 2) ニコン 本社 / イノベーションセンター
株式会社ニコン 馬立稔和
株式会社三菱地所設計 中村俊介 岸澤竜之介
永田 敦 沼田祐子
- 3) TODA BUILDING
戸田建設株式会社 川又哲也 太田行孝
得能将紀 中川康弘
庄司大輔
- 4) 中央大学駿河台キャンパス
学校法人中央大学 井上英明
株式会社日建設 大場彬史 小野潤一郎
山本 裕
大成建設株式会社 市川直樹

III 業績賞

- 1) 建物の耐震性と微振動性能を両立する
マルチステップ免震®
清水建設株式会社 杉山友也 片山浩一
福喜多輝

(敬称略)

審査経過

前提および共通事項

本年度の免震構造協会賞選定作業は、応募書類を用いた一次審査による絞り込みを行い、その後ヒアリングもしくは現地審査とその結果を踏まえた二次審査を行い、投票により過半数を超えたものを議論し、最終的には委員全員の合意を持って受賞作を決定しました。

技術賞

応募総数は1件でしたが、一次審査では過半数の支持を得たため、ヒアリングを行いました。この結果を元に二次審査で議論を行い、全会一致で「建物自体を制振装置化し超高層の課題を解決『BILMUS』」を技術賞に決定しました。

作品賞

本年度は15件の応募がありました。一次審査は書類審査で行い、全委員で協議をした結果、11作品を現地審査および二次審査の対象として絞り込みました。二次審査では、まず現地審査の報告と事前投票の結果を踏まえ議論を行いました。議論の結果、過半数の賛同を得た「中央日土地博多駅前ビル」、「ニコン 本社/イノベーションセンター」、「TODA BUILDING」、「中央大学駿河台キャンパス」を作品賞に決定しました。

業績賞

応募総数はこちらも1件でした。技術賞と同様に、一次審査では過半数の支持を得たため、ヒアリングを行いました。この結果を元に二次審査で議論を行い、全会一致で「建物の耐震性と微振動性能を両立するマルチステップ免震®」を業績賞に決定しました。

補足 エクスパンションジョイントの考え方

広場などの公共空間では、常時の使い勝手からフラットに納まるものを大量に用いているものと、非常時の挙動を懸念して使用数量を最小に抑えたものと、全く異なる考え方でデザインされたものがありました。これらを評価するには、非常時の免震 Epx.j の挙動に対する関係者の共通認識が不可欠ですが、現状では曖昧になっているようです。協会としての認識を示す必要を感じました。

(山梨 知彦)